

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年9月22日

【評価実施概要】

事業所番号	4071102133
法人名	有限会社 ケイユーカンパニー
事業所名	グループホームソレイユ
所在地 (電話番号)	福岡市南区老司一丁目11-11 (電話) 092-565-8436
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成20年8月28日

【情報提供票より】(平成20年8月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 3月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	18 人
利用定員数計	18 人
常勤	9人, 非常勤 9人, 常勤換算 17人

(2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="radio"/> 単独 <input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/> 新築 <input type="radio"/> 改築
建物構造	鉄骨 造り	
	3 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,000~45,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	有() 円	<input checked="" type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有(150,000 円)	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

(4) 利用者の概要(平成20年8月15日現在)

利用者人数	16 名	男性	2 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	6 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.3 歳	最低	76 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	西岡病院、中尾診療所、南島整形外科、にしだ眼科、三原皮膚科形成外科クリニック、アンブル歯科医院、関歯科医院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大通りに面した街なか中にあり、ちょっと立ち寄りたくなるような3階建てのモダンなホームである。実際に立ち寄られる方もあり、介護相談へとつながっている。玄関の横には小さいながら庭園が造ってあり、利用者のくつろぎの場となっている。中に入ると、窓が大きくとられ、明るく開放感のある造りで利用者も職員もゆっくりとした雰囲気が伝わってくる。ゆったりとしたスペースで安心・安全な生活がうかがえる。日頃から、近隣住民との挨拶を大切に、町内会の廃品回収に参加したり、ボランティアとの交流を図っている。近隣の中学校からの職場体験学習依頼を受け入れ交流を深めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回で、2回目の外部評価となる。前回の評価では、改善点として水分摂取量の記録・同業者との交流・成年後見制度についての研修等が挙がっていた。水分摂取量では、食事摂取量と共に見やすい記録表が作成されている。また、成年後見制度は実際に活用されている利用者が入居され、職員も理解している。同業者との交流は、まだ実現には至っていないが、運営者・管理者・職員間で話し合い検討中である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の評価は、職員の異動があつて、管理者にとっては初めての外部評価となるが、全職員で自己評価に取り組み、職員全体の意見を反映したものとなっている。また、外部評価を実施する意義をしっかりと理解し、サービスの質の向上に活かす心がうかがえた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議には、利用者・家族代表者・地域包括支援センター職員・民生委員(町内会長の妻)・管理者・職員が参加している。ホームからは、写真を盛り込んだ資料を作成して、日々の生活や活動内容を報告している。民生委員からは、ボランティアの紹介してもらっている。また、家族代表から面会者にお礼を言いたいので面会者の名前が知りたいという要望があり、個人情報管理に配慮しながら面会者名簿を作成している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)</p> <p>家族会がないため、運営推進会議のなかで意見を聞いたり、面会時に積極的にあいさつをし、苦情・要望などを聞いて、その都度対応している。窓口は、管理者と限らず全職員に言えるような雰囲気づくりをしている。今までに苦情はないが、面会簿作成やかかりつけ医への通院介助等の要望があり、直ちに対応している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>民生委員の紹介で、ボランティアを募り訪問してもらっている。町内会の廃品回収に参加したり、中学生の職場体験学習に賛同し受け入れをしている。また、随時、介護や福祉についての相談受付を行ったり、近隣の事故・災害時の避難場所としての体制ができています。</p>

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を理解し、「信頼・敬愛」を理念に掲げられている。	○	地域と密着したサービスが既に行われているので、理念にも地域密着についての記載が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月に1回の全体会議のときに理念について触れ、理念の共有・意識の向上に努めており、全職員が「信頼・敬愛」を意識して日々の支援に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日頃から、近隣住民との挨拶を大切にし、町内会の廃品回収に参加したり、ボランティアとの交流を図っている。また、近隣の中学校からの職場体験学習依頼を受け入れ、交流を深めている。他の中学校や子供たちとの交流活動も増やしていく予定である。随時、介護や福祉についての相談も受け付けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、全職員に自己評価及び外部評価の内容・意義を伝え、前回の評価を踏まえた改善に取り組んでいる。前回では、水分摂取量記録の工夫、同業者との交流、成年後見制度の研修が挙げられ、早速、実施できるよう計画に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・家族代表者・地域包括支援センター職員・民生委員・管理者・職員から成り立つ運営推進会議では、写真を盛り込んだ資料を配布し、ホームの生活・活動の報告を行っている。民生委員からボランティアの紹介を受けたり、家族からの面会者名簿作成の要望など、その都度意見を反映させ、サービス向上に努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の生活保護受給についての相談・対策など、市の生活保護課・介護保険課の職員との連絡を密にとり、サービス向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を活用されている利用者が入居中なので、管理者を中心に関係者と密に連絡を取り支援を行っている。また、今後も施設内外の研修に積極的に参加し、学んでいく機会を持てるよう計画中である。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日々の様子や活動を文章にし、また、金銭管理は現金出納帳と領収書をまとめて毎月の請求時に同封し、郵送している。個々には面会時に積極的に利用者の状況を報告している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時、コミュニケーションを十分して、意見を言いやすい雰囲気をつくっている。また、苦情相談窓口や公的機関の連絡先等も告知している。意見・不満・要望が発生したときには、その都度対応している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	業務配置を固定化せず、全職員が各ユニットの利用者の状態や状況を把握し、支援できるよう配慮している。職員の入退職に関しては、利用者に不安を与えないように個々にあいさつをし、家族の訪問時にも口答で伝えている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用面接時には、資格や経験だけにとらわれず、人間性や意気込みなどを重視し、採用を行っている。また、職員一人ひとりの希望を聞き入れ、無理のない勤務体制に努め、個人のスキルアップへの取り組みなどに配慮している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者は、職員に日々の業務の中で人権を尊重するケアの実践に向けて啓発および助言を行っている。生活保護受給利用者への対応等について協力医の介護相談委員から講習を受け理解を深めている。	○	市町村等が実施する啓発活動に参加し、職員の人権意識の向上を図りたいという管理者の思いはあるが、未計画の状態である。法人内においての研修等も検討し、実施できるよう期待したい。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修や外部研修へ参加している。また、紙オムツ業者の開発部の方に講習を依頼し、豊富な種類・正しい使い方等を学び、ケアの向上につなげている。	○	施設内研修が不定期に行われており、確立したものとなっていない。まだ2年を過ぎたばかりの新しいホームであるが、職員育成のために定期的な研修を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>開設時に他施設での事前学習や実習を行っている。現在、管理者レベルのネットワークづくりや相互訪問は実施しており、これを利用して見学・勉強会などを計画し、他職員との交流も図れるよう検討中である。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>施設見学をしていただいたり、事前に職員が自宅へ訪問して直接利用者と会うようにしている。可能であれば体験入居から始め、利用者や家族に徐々に馴染んでいただくからのサービスを心がけている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者のこれまでの経験を、日常生活やレクリエーションなどに取り入れ、楽しみながら過ごせるよう支援を行っている。華道や茶道・書道など、かつて先生をされていた利用者がおられ、若い職員がそれらを学んだり、日々の生活の中でも利用者から学ぶことが沢山あり、共に支えあう関係ができています。</p>		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>担当制にしているが、全職員が利用者とのかかわりの中で、会話や表情で利用者の思いを把握している。また、意思疎通の困難な場合は、アセスメントや家族から情報を収集して利用者本位に対応できるよう努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者主体の暮らしが反映できるよう、利用者の希望、家族の意向などを重視し、関係者、職員等がいろいろな意見を出し合って介護計画書を作成している。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者の日常生活や健康状態を申し送りや伝達ノートで確認し、見直しを行っている。定期的なモニタリングと計画の見直しと共に、状況の悪化があった場合は、家族や関係者で話し合い、現状に即した介護計画書を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域の中学校の学生を福祉現場の体験学習としてホーム見学を受け入れていたり、近隣での事故・災害時の避難場所として提供できるように取り組んでいる。また、利用者一人ひとりの要望に添った買い物や食事などの外出の支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望する医療機関やかかりつけ医の受診を支援している。家族が同行できない場合は、職員が代行するようにしている。協力医療機関においては、往診など24時間オンコールできる体制ができています。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医や協力医療機関とは終末期に対する体制は整えているが、同意書やマニュアルはできていない。重度化した場合や終末期において利用者や家族が望む支援ができるように同意書やマニュアルの作成、職員間の研修に取り組むなど、今後の課題としている。	○	主治医や協力機関との終末期における体制、職員の心の準備はできているが、同意書やマニュアルが作成されていない。利用者や家族が安心して、重度化や終末期の支援が受けられるように実践にむけての具体的な取り組みが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティングや全体会議では個人の尊厳やプライバシーに対する意識を常に持って利用者に接するよう職員全員で取り組んでいる。個人情報に関する記録等は事務所に適切に保管し、秘密保持に努めている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはおおまかに決めているが、一人ひとりのその日、その時の思いを尊重したケアに努めている。業務内容や時間配分についても、利用者の気持ちに添えるように時々見直しや検討を行っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は母体の病院で管理栄養士が献立・栄養管理をし、材料をホームへ送ってくる。職員がレシピを作成し、病院食のようにならないようひと工夫して調理している。飲み込みの悪い人や介助の必要な利用者を配慮しながら職員も一緒にテーブルを囲んでいる。配膳や食事の後片付けや食器洗いなど職員と一緒にやっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて提供している。利用者の身体状況に合わせて福祉用具を活用し、安全確保に配慮している。利用者が入浴を拒む場合は職員が言葉掛けなどで対応の工夫に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	植物の水やり、クイズ、洗濯物たたみ、縫い物など利用者の得意とする趣味や能力が活かせるように支援している。日替わりのレクリエーションを企画し、楽しく活力ある日々が過ごせるように取り組んでいる。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節に合わせて天気の良い日は、近くの公園に出かけたり、ホームの庭園、屋上を利用して茶話会や外気浴を行って、屋内だけで過ごすことがないように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関前は自動車の往来が多い道路となっているため、門扉は施錠しているが、家族が容易に入出ができるように鍵は刺したままにしている。利用者の居室の入口は鍵はかけないが、外に面している窓は安全のため、人の出入りができない範囲の開きになっており、全開できないようにしている。	○	街中の車の往来が激しい立地条件から、安全を重視する事は必要であるが、職員全員が鍵をかけることの弊害を理解して門扉の施錠、居室の窓の開閉についての改善策が望まれる。
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時のマニュアルを作成し、ホーム内での避難訓練を実施している。近隣の病院との協力やホーム前の空き地の避難場所などの確認ができています。近隣との連携を検討している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量、嚥下状態など詳細に記録し、一人ひとりの栄養状態を全職員が把握できている。水分補給が十分に摂れない場合は、ジュースやトロミンなどで確保ができるように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに洋風の明るくて広い窓があり、そこから外の街中を見ることができる。そのリビングの一角に共有のソファが設置され、くつろげる空間となっている。室内の壁には絵画や季節ごと作成した作品が飾られている。居室、廊下などのカーテンは年2回取り替えて、気分転換ができるように工夫がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居前に馴染んでいた筆筒や置物、写真、絵画、書などが持ち込まれ、生活の継続を尊重した支援が行われている。窓を広くとり全体的に明るく、居心地よく過ごせるように工夫されている。</p>		